

対ガボン共和国 事業展開計画

2020年 4月 現在

基本方針 (大目標)	経済開発と社会開発のバランスの取れた国造り支援
---------------	-------------------------

重点分野 1 (中目標)	社会・生活面の向上と格差是正
-----------------	----------------

開発課題 1-1 (小目標) 教育/ICT/コミュニティ開発	【現状と課題】 ガボンの教育分野における支援ニーズは依然として高く、特にリーブルビルやフランスビルにおいては校舎の過密化が問題となっており、多くの学校が増設及び整備を必要としている。地域格差も大きく、地域によっては電気やトイレといった必要不可欠なインフラが未整備の学校も存在する。また、2012年より就学前教育が義務化されたが、就学前教育の普及率は37%(2017年 UNICEF)と依然として低い。			【開発課題への日本の対応方針】 我が国の教育協力政策である「平和と成長のための学びの戦略」を踏まえ、同国の「サービス産業育成計画」、「人間開発戦略」及び「教育・職業訓練・雇用プログラム」を支援するため、教育、ICT、保健、コミュニティ開発分野への技術協力等を通じて、社会・生活面の向上と格差是正を支援する。上記方針を通じ、持続可能な開発目標4(教育)、9(インフラ、産業化、イノベーション)等の達成に貢献する。						支援額 (億円)	備考	
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							
					2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
	教育・雇用改善プログラム	①校舎の増築、改修を通じた学習環境の改善 ②教授法の見直し ③教育カリキュラムの見直し	教育/コミュニティ開発分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力 教育/ICT/コミュニティ開発分野のJICA海外協力隊 教育/ICT/コミュニティ開発分野における研修	草の根無償 JOCV 課題別研修地	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	0.19	
開発課題 1-2 (小目標) 保健	【現状と課題】 ガボンは、国家の優先的な課題として、保健医療システムの構築を挙げているが、油価下落に伴う政府予算の逼迫により十分な措置が取られていない。国内では保健医療の地域間格差が存在し、医療施設及び医療従事者の充実が課題となっているほか、医療環境の改善を講じる必要がある。また、ガボンの乳児死亡率(1000出産あたりの死亡数)は31.1(2019年世銀)と高く、母子保健の改善が喫緊の課題となっている。			【開発課題への日本の対応方針】 社会格差の是正に貢献するため、保健分野におけるJICA海外協力隊の派遣及び草の根・人間の安全保障無償資金協力等のスキームを通じた支援を実施し、基礎医療等へのアクセスを向上させる。また、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)を通じて医療の基礎研究のレベルアップを支援する。また、母子保健、障がい者支援、臨床検査機材分野への支援を中心に取り組む。上記方針を通じ、持続可能な開発目標3(保健)等の達成に貢献する。						支援額 (億円)	備考	
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							
					2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
	国際レベルの医療提供プログラム	①医療従事者の養成・育成及び医療従事者の管理システムの構築 ②医療インフラの整備	保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■	■	■	■	■	0.19	
			公衆衛生上問題となっているウイルス感染症の把握と実験室診断法の確立プロジェクト	科学技術	■	■	■	■	■	■	3.00	
			保健分野のJICA海外協力隊	JOCV	■	■	■	■	■	■		
			保健分野における研修	課題別研修地	■	■	■	■	■	■		
ガボンにおける若者の早期の望まない妊娠予防計画			無償	■	■	■	■	■	■	1.00	国連人口基金(UNFPA)連携	
母子保健技術顧問		個別専門家			■■■■■■■■							

重点分野2 (中目標)	環境保全											
開発課題 1-1 (小目標) 生物多様性保全/地球温暖化・気候変動対策	【現状と課題】 ガボン地球の片肺ともいわれるコンゴ盆地の一角に位置し、国土の約85%が森林に覆われている。この森林及び国内13の国立公園には、多種多様な動植物が見られ、世界有数の生物の聖域となっている。これらの多様な生物を保護しつつ、農林水産分野で12万5千人の雇用を創出する目標をガボン政府は掲げており、保護地域における保護と開発の調和が課題となっている。				【開発課題への対応方針】 同国は、「緑のガボン」政策を通じ、生物多様性保全、地球温暖化・気候変動対策及びエコツーリズムの振興を重点課題としており、技術協力等を通じてこれらの取組を支援する。上記方針を通じ、持続可能な開発目標7（エネルギー）、13（気候変動）、15（陸上資源）等の達成に貢献する。							
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	生物多様性・森林保全プログラム	①インベントリーシステムを通じた森林資源の保存 ②エコツーリズム開発 ③生物多様性保護	ムカラバ地域におけるインタープリテーション手法を用いた地域参加型エコツーリズム開発	草の根技協	2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
			生物多様性・森林分野における研修	課題別研修他								
			持続的森林経営に資する国家森林資源インベントリーシステム強化プロジェクト(フォローアップ協力)	技プロ								
再生可能エネルギープログラム	①クリーンエネルギーの活用	太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画	無償							6.70		
		エネルギー分野における研修	課題別研修他									

重点分野3 (中目標)	産業多角化の推進											
開発課題3-1 (小目標)	【現状と課題】 ガボン産油国であるため、国民一人あたりのGNIは高水準にあるものの、多くの食料品は海外からの輸入に依存しており産業の多角化が課題である。そのため同国政府は農業、畜産業、水産業の増産計画を策定。また、パーム油や水産物の加工業振興も計画され、産業多角化が期待されている。			【開発課題への対応方針】 農業、農作物加工、水産業、水産加工分野への技術協力等を通じて同国の重視する産業多角化を支援する。また、同国は経済パートナーの多様化に積極的に取り組んでおり、官民連携を通じた民間企業支援の可能性を追求し、産業多角化に貢献する。上記方針を通じ、持続可能な開発目標2(飢餓)、9(インフラ、産業化、イノベーション)、14(海洋資源)等の達成に貢献する。								
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							
農林水産開発/官民 連携強化	食料安全保障プログラム	①農業生産性の向上 ②加工水産業の改善 ③養殖振興 ④農水産業での官民連携の強化	零細漁業振興アドバイザー	個別専門家	2019 年度 以前	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	支援額 (億円)	備考
			農業・水産分野のJICA海外協力隊	JOCV								
			アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)「修士課程及びインターンシップ」プログラム	国別研修								
			農業・水産分野における研修	課題別研修他								

【凡例】 「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(＝水産無償資金協力)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「実線」(＝実施期間)、「破線」(＝実施予定期間)